

<基本情報>

所在地：福岡県八女郡広川町

<農場概要>

- びわ（ハウス）40a、みかん（露地）10aは全て有機JAS認証を取得
- 他に桃（ハウス、露地）、ぶどう（ハウス）、水稻を栽培（びわ、みかん以外は非有機）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 以前は、町内に4名のびわ農家がいたが離農等により減少し自分一人となった。
生産量では他産地との競争に勝てないため、差別化が必要と判断し、食の安全安心に着目し有機栽培を開始。
- 平成17年にびわ、令和5年にみかんの有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 販売先の大半はJASだが、有機農産物取扱業者へも販売。
有機農産物取扱業者への販売量が徐々に増えており、現在では3割近くを占めている。
- 「有機びわ」は、化粧箱（500g）とパック（250g）の2種類で販売。
- いわゆる規格外品は殆ど発生しないため、果実を使用した加工品はないが、葉を使用した「有機びわ茶」を有機加工JAS認定事業者に製造委託し、販売。
- 全て国内販売のみで輸出は行っていない。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

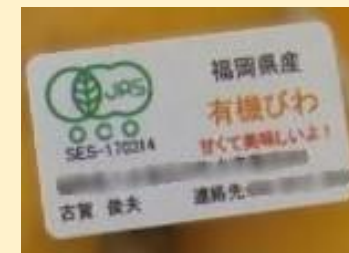
- **病害虫対策**
害虫は、管理作業で圃場巡回する際に捕殺。
- **雑草対策**
草刈り機による除草に加えて補助的に人手による除草。
- **土づくり**
米ぬかに籾殻を混合した自家製有機堆肥による施肥。

<苦労しているところ>

- 害虫は、捕殺で行っているため大変な手間が掛かっている状況。
- 除草作業は、乗用草刈り機と背負い式の草刈り機で行っているものの重労働である。

<現場の課題>

- 今後も有機農業を継続していくが、有機JAS認証取得後の毎年の継続審査費用が負担となっているため、国で支援いただきたい。
- 消費者の認知度を高めるため小売店にオーガニック売場の設置を義務化することで、消費が増え、生産も増えるという好循環が生じるのではないかと。
- 害虫捕殺の手間や除草作業が重労働のため、面積の拡大が見込めない。



<基本情報>

所在地：佐賀県鹿島市

<農場概要>

- 経営面積：26ha（約3haは改植後未収穫期間中）※全面積有機栽培
- 栽培品目：柑橘類（温州みかん、レモン、ポンカン等）すもも等
- 従業員11名(代表を含む。)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培では、自身も含め篤農家ほど農薬散布が多く薬害と思われる病気や体調不良に見まわれる実態を目の当たりにし、農家自身が健康でなければならぬと考えたこと。
- 昭和63年に全面有機栽培に転換し、有機JAS制度が始まった平成13年（2001年）から有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 生果は国産オーガニック専門店、生協パルシステム等に販売している。有機の引き合いは強く、注文に応じきれないほどである。インターネットで、「鹿島みかん村」としても販売している。
- 生果のほか、ジュース、ドライフルーツ、ジェラート、ジャム等の加工・販売に加え、有機レモン生石鹸も開発・販売している。



【お問合せ先】TEL.0954-62-8334

会社ホームページ <https://mikan-satou.jp/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

「有機」表示のできる農薬として、殺菌剤のイオウフロアブル及びICボルドー66D、殺虫剤のマシン油を使用。黒点病菌の発生源の枯死枝を適確に除去し、園外で処理。

● 雑草対策

近年の温暖化の影響で雑草の繁殖の勢いが激しくなった影響もあり、経営面積の約半分程度で乗用草刈機乗用モアーを利用。他にはラジコン草刈機を活用するが、法面や段差地等の斜面は安全面を考慮して人力で実施。

● 土づくり

発酵鶏糞・豚糞や発酵させたみかんの絞りかす、枯れ草等を利用した土づくりを実施。



<現場の課題>

- 輸送コストの高騰、JAS認証更新費用等の経費が経営を圧迫している。
- 収穫期には作業員を増員する必要があるため、最近では隙間バイトアプリを活用して労働力の確保を図っているが、パート雇用者も高齢化して人員確保が難しくなっている。

<今後の展望>

- 近年カメムシ被害が多くなり、一部の樹園地で早生みかん（10月後半から11月収穫）が2年連続で全滅した。来年からは、カメムシ被害の大きい樹園地は、販売先のエコ栽培基準に見合う薬剤を使用した特別栽培で対応したい。

<基本情報> 所在地：長崎県雲仙市吾妻町

<農場概要> 有機 J A S 認証ほ場約3.0ha（オリーブ：850本）
従業員：代表含む3名（別途、ほ場での除草作業や加工作業を福祉施設に依頼（農福連携））



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 農業関連各種機械装置の開発を行う会社を経営しており、小豆島のオリーブ産地から搾油機のメンテナンスを依頼され、産地を訪れるうちに栽培に興味を持ち、会社の農業部門としてオリーブ栽培を開始（2008年）。平成28年（2016年）、ナチュラルファーマーミング合同会社として分社化。海外では、オリーブ葉は医薬品として販売されていることから、健康を意識し当初から葉に特化した有機栽培を実践。
- **令和元年（2019年）有機 J A S 認証取得（農産物、加工品）。**



<病害虫対策・除草対策>

- 毎日、園地を巡回し、剪定、虫とり、草刈りを実施。樹間が広く、除草は、乗用管理機が基本で樹木の周辺は手刈り。現在、リモコン草刈機の導入を検討。

<土づくり>

- 牡蠣焼き小屋から分けてもらった牡蠣殻を、1年ねかせて散布。



<苦労している（した）ところ>

- 農業参入する際に50 a以上の農地を必要としたが、農地が見つからず、耕作放棄地を借り受け。ほ場は、元々レンコン畑だったため、排水や土づくりに重機による客土造成を行った。
- 自社農園、加工場による安心安全、品質・衛生管理の徹底。

<今後の展開>

- 当初、自社以外オリーブリーフ茶を製造・販売する所はなかったが、最近、他産地も参入。他産地のものには「苦くておいしくない」と評価されたものもあり、当社の販売にも影響を受けたため、自社基準を設け差別化している。
- 現在、海外展開に向けて準備中。
- 長崎雲仙を平和（有機・笑顔）のオリーブの町にする。
- 日本唯一の有機オリーブのプラットフォームとなる事を目指す。

<販売について>

- 県内のテーマパーク、空港、駅、直売所等、地元での販売。その他、食品卸やネット通販。顧客拡大を図るために県内外の百貨店での催事出展。



<取扱商品について>

- リーフ（葉）を製品化。
【リーフティー（パック、パウダー）、ノンアルコール飲料、アイスクリームを主とし、副次的に生産したオリーブオイルも販売】

【お問合せ先】 TEL. 0957-51-4554

ホームページ：<https://unzen-naturalfarming.com>

<基本情報>

所在地：熊本県葦北郡芦北町田浦

<農場概要>

- 面積：14 ha（甘夏50aで有機 J A S 認証取得）
- 従業員：8人、役員：2人
- 栽培品目：柑橘類（レモン、はるか、せとか、不知火、甘夏、津之輝（つのががやき）等）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 明治33年（1900年）にレモンやネーブル、グレープフルーツなどの苗木を導入（当時では先進的農家）。
- 昭和50年（1975年）頃の甘夏の黄金期に、先々代と先代が、甘夏の食味が落ちたと感じたことをきっかけに、その原因を研究し、果樹栽培には微生物を意識した土づくりが重要と認識。減農薬・無化学肥料による果樹の持続可能な栽培方法に取り組み、平成6年（1994年）に会社設立。
- 平成15年（2003年）に「甘夏」で有機 J A S 認証を取得。

<販売について>

- 有機 J A S 認証の甘夏（以下「有機甘夏」）の8割は（株）マルタ（全国展開の関連卸売流通会社）を通じWEB等で消費者へ、残り2割は消費者へ直接販売。販売価格は、認証品でない通常の甘夏の2割高くらい。
- 有機甘夏の味は各方面から好評で、**収量も認証品でないものと遜色ない。**
- 有機甘夏以外も特別栽培で生産し、（株）マルタを通じ、消費者や大手スーパー、生協、学校給食向けに販売。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
圃場周辺に草花を生やしておくなど、病害虫の天敵が住みよい環境を確保することが重要。
- **雑草対策**
園地全体を見ながら適期の除草が必要。土が安定してくると樹に絡みつくような雑草がなくなる。
- **土づくり**
微生物のバランスを整えることが重要。土の表面から20cmくらいまでを良い微生物に支配させると、作物全体のバランスを整えることができる。魚カスや菜種カス等15種類以上の有機原料を発酵させた堆肥（㈱マルタ・グループが製造）を園地全体に散布している。

<苦労しているところ>

- **高温対策**
高温などの要因に対してどのような症状が出るか解明されていないことが多く、対処方法に苦慮している。今後、高温の影響をいかに少なくし、収量を確保するかが課題である。

<人材育成>

- 次世代を担う人材育成を目的に、平成9年（1997年）頃から研修生の受入れを開始。修了生の中には、熊本県外から就農し甘夏栽培（有機 J A S 認証取得）を始めた農業者もいる。



【お問合せ先】 TEL.0966-87-0061

ホームページ：<http://tsurudayuukinouen.web.fc2.com/>

<基本情報>

所在地：熊本県宇城市不知火町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 延べ面積：約36ha (宇城市、氷川町、産山村、水俣市等)

主な栽培品目：有機JAS認証トマト、かぼちゃ、たまねぎ等の野菜類、柑橘類
(柑橘類の一部のみ特別栽培)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 「農業は自然を守る産業である」という信念のもと、有機栽培で自立できる農業を目指し、市内で有機農業に取り組んでいた澤村氏を中心に、2001年に柑橘農家4戸、野菜農家2戸の計6戸で設立。2003年に法人化。(2025年11月現在、11戸で構成)

<販売について>

- 販売先は、大半が生協及び量販店。また、少量ながら県内の直売所や自社オンラインショップでも販売。
- なお、販売先との商談にあたっては生産物の栄養分析結果(糖度、ビタミンC、硝酸イオン、抗酸化力)を活用し、十分な品質が確保されていることを説明。



<消費者への情報発信について>

- 年に1回、消費者等との交流を目的にほ場見学、農業体験ツアーを開催。生協と協力し、生産物に対するアンケートを実施し、消費者ニーズを把握。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

腐敗するような資材は投入せず、虫害発生が少ない時期に栽培。ハウス内は加湿状態としない等の環境負荷をかけない栽培を行うことで病害虫を抑制。また、タケノコや山菜等から抽出した天然エキスを使用する。

● 雑草対策

通路や畝の上にカヤやわらを敷くことにより、雑草発生を抑制。

● 土づくり

土壌バランスを重視し、野草堆肥及びボカシ肥料を施用。野草堆肥は、2年程熟成。また、ボカシ肥料は米ぬかを中心に魚粉やカキ殻等加え、自社肥料製造施設で製造。土壌分析に加え、野草堆肥とボカシ肥料の成分分析も毎年実施することで、土の状態を常に把握するよう努めている。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、販路拡大のため積極的に売り込んだがうまくいかなかった。その後の品質向上により自然と販路が拡大した。

<今後の課題>

- 有機農業の担い手育成。培った技術や農地の次世代への継承。



【お問合せ先】TEL. 0964-33-7240

ホームページ：<http://higoayuminokai.co.jp/>

<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- 面積：6ha（有機JAS認証：4ha）
- 従業員：7名
- 栽培品目：かぼす（日本で唯一有機JAS認証）



<有機農業に取組むきっかけ>

- 平成22年（2010年）、勤務していたかぼす農園の廃業に伴い、農園を引く継ぐ形で会社を設立。会社設立を機に差別化を図るため有機栽培に取り組む。
- 平成23年（2011年）に有機JAS認証（有機農産物）を取得。
- 平成30年（2018年）に有機JAS認証（有機加工食品）を取得。

<販売について>

- 青果と果汁を卸売業者、インターネット通販、グリーンコープなどに販売。
- 果汁は、自社で搾汁・ボトルリングし、有機かぼす果汁100%として販売。
- 近年、家庭用の加工用原料として、規格外品の販売を開始。



【お問合せ先】TEL.097-578-1600

会社ホームページ <https://kabosu0974.jimdofree.com/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
土を健康にして、樹を健康に育てることが基本。樹の自己免疫機能を高め病害虫に強い樹にすることを大切にしている。
- **雑草対策**
刈払い機と乗用草刈り機で年3回程度行う。地面が見えるまで刈らず、ある程度の高さを残すことで、草が夜露を集め土壌の保湿効果がある。
- **土づくり**
特別な土づくりは行っていないが、刈取った雑草をその場に残すことで分解し肥料となる。その土地の雑草を肥料にするのが最も良い。

<苦労しているところ>

- 有機栽培ゆえに人件費がかかる。草刈りにしても作業に何日もかけることで、当然人件費がかかる。

<現場の課題>

- 現状の規模をいかに維持していくかが課題。

<今後の対応>

- 令和3年（2021年）から輸出を開始。青果をドイツへ、果汁をドイツ・フランスへ、さらなる輸出拡大を検討中。



<基本情報>

所在地：大分県玖珠郡九重町

<農場概要>

- 面積：1.6ha（すべて有機栽培、うち有機JAS認証：0.8ha）
- 従業員：約10人（家族3人、パート複数人※時期によって増減）
- 栽培品目：ブルーベリー（約30種類の品種をリレー栽培）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 2008年に公務員を早期退職。両親が少量で栽培し、当時九重町が産地化を推進していたブルーベリーに魅力を感じ、2013年から栽培を開始。現在では県内トップクラスの1.6haまで生産規模を拡大。
- 2013年に宮崎県で開催されたGLOBALG.A.P.の会議に参加したことを契機に、国際的な第三者認証への高い関心を持った。
- 2016年にGLOBALG.A.P.、2019年に有機JAS認証を取得。時間も費用もかかるが、取引先からの信頼と販路拡大に寄与。
- 2024年には、みどり認定を受ける。

<販売について>

- 東京、大阪、福岡をはじめとする県外の大手スーパーや生協を中心に販売。
- GLOBALG.A.P.や有機JAS認証の取得は外資系企業との取引にも有益。



<リスク分散、周年出荷について>

- 地熱利用ハウスや標高の異なる複数ほ場での栽培によりリスク分散するとともに、冷凍加工品を生産することで、生果との周年出荷体制を実現。

<農福連携について>

- 社会福祉法人へ摘み取りや選別の作業を委託し、農福連携にも取り組む。

【お問合せ先】 Tel・Fax 0973-78-8917
 代表者携帯電話 090-3329-0507

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
 剪定作業では、風通しを良くし樹体全体に日光が当たるよう留意。
- **雑草対策**
 刈払機や自走式草刈機を使用。近年の高温対策として地温が上がり過ぎないように、雑草の丈を調整しながら高切りにしている。
- **土づくり**
 取引先のニーズに応じた土づくりを実践。有機JAS認証ほ場では使用可能な堆肥資材を散布。特別栽培ほ場ではアミノ酸由来の資材を使用するほか、町内業者が製造する珪藻土由来の資材を利用し土壌のPh調整を行っている。

<苦労しているところ>

- 収穫や除草作業は人力だよりとなるので、人材確保に苦労。

<取組の成果>

- 2024年度大分県農業賞（個人的農業経営部門）で最優秀賞を受賞。有機生産者の同賞受賞は画期的なこと。

<今後の展開>

- 2025年産から、収穫後の紅葉したブルーベリーの枝を「枝物」として販売。
- 将来的には、農福連携の観光農園を運営したい。
- 目標は「ビッグでなくストロング」。



<基本情報>

所在地：宮崎県都城市

<農場概要>

- 梅 約7ha、1,800本（鶯宿梅（約7割）、光友一号、白加賀など）
- 無農薬で栽培し、自社で無添加加工・製造を行い販売
- 従業員9名（うちパート2名）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 終戦直後、農薬により虫などがいなくなったり、土壌が固くなるなどの現場を見て、無農薬の自然栽培を目指した。
- 企業理念は、「土は命、食べ物は人の命」。

<販売について>

- 青梅の収穫量は年間約10～15トン。
- 青果として市場に販売すると、原価割れの価格となるため、自ら価格を決定できる自家加工品として、直接販売を行っている。
- 主な販売先は、「道の駅」都城NiQLL、みやざき物産KONNE及び自社のオンラインストアで、国内販売を優先している。
- 「都城盆地鶯宿梅の梅干し」が原料と製法にこだわった地域食品ブランド表示基準である「本場の本物」認証を宮崎県で初めて受けた。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
梅の周りに深い溝を掘り、大量の堆肥投入により樹勢を強くすることで病害虫の被害を抑え、被害を受けた枝は小まめに剪定するなど小まめに対処している。
- **雑草対策**
刈払機等で年に6回前後。従業員の6割が女性であるため、自走式草刈り機も使用。
- **土づくり**
開園以来60年以上、園の下草、河川敷の草、油粕、鶏糞など動植物由来の有機物を施用することで、細い棒が1メートル以上入る柔らかい土壌を培う。



<現場の課題>

- 梅園の管理、製品の販売等は今後、高齢化等により労働力の確保が難しくなるため、人材の確保と育成が必要。

<今後の展開>

- これ以上の規模拡大ではなく、土づくりに専念し、樹木に最適な環境を作り、有機栽培の循環サイクルを次世代へ継続させる。品質を低下させず消費者との信頼を確保。



【お問合せ先】TEL. 0986-22-6325 Fax. 0986-22-2809

会社ホームページ <https://www.koubaien.com>

<基本情報>

本部所在地：鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町

<農場概要>

- 構成員：162戸（有機JAS取得102戸）、職員45名、パート30名
- 面積：275ha
- 栽培品目：約120品目（有機野菜、果樹、茶など）



<有機農業に取り組むきっかけ>

大和田前代表ご夫妻が大学在学中に公害問題に関心を持ったことをきっかけに有機農業の道に進み、昭和55年（1980年）鹿児島市で就農し有機生産を開始。昭和59年（1984年）に有機生産組合「かごしま有機生産組合」を10戸で設立。

<販売について>

- 直営店「地球畑」が県内に3店舗と有機野菜の食べ方の提案も兼ねた地球畑カフェ「草原をわたる船」。



- 全体の3割は直営店舗で、その他の主な出荷先は「オイシックス・ラ・大地株式会社」、(株)ビオ・マーケットを通じた宅配やスーパーマーケットへの卸、コープ九州、その他の生協等。
- 毎年3~4回首都圏のマッチングフェアに参加。
- 平成30年（2018年）4月に海外事業部で輸出事業をスタート。
- 4~5年前から人参ジュース・りんご人参ジュースやごぼう茶・黒糖生姜湯を開発、ベビーフードの開発では、平成30年（2018年）に鹿児島県特産品協会理事長賞を受賞。

<特色ある活動>

- 新規就農者のための研修施設「有機農業支援センター」があり有機苗の供給も行う。

- オーガニックフェスタ（毎年5万人の来場者）を開催・出展。
- 平成29年（2017年）からネパールへの技術支援も開始。

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

生産体制強化のために品目部会及び地域毎の支部会、年2回の作付会議やフォーラム（講習会・分科会）を行ない、経営力向上と栽培技術の共有等を行う。

- **病害虫対策**
土着天敵の活用や適期の播種、コンパニオンプランツの活用。
- **雑草対策**
太陽熱処理の活用、緑肥の活用。
- **土づくり**
土壌分析に基づき、土壌の肥沃度を高めることを優先課題とし、近年は特に緑肥の利用に取り組む。

<苦労しているところ>

- 物流コストと資材コストの高騰。



<今後の展開>

- 有機農産物への国内ニーズと海外ニーズの高まりに対応した生産体制の構築と面積の拡大。

【お問合せ先】TEL. 099-282-6867
生産組合ホームページ <http://kofa.jp/>



<基本情報>

所在地：鹿児島県日置市東市来町

<農場概要>

- 6 haの農場でにんじん、だいこん、さつまいも（紫いも）、水稻（古代米、ヒノヒカリ）、キウイフルーツを生産。
- 有機JAS認定を取得。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 農薬等の影響で体調不良となる農家が、少なくないことを聞いたことがきっかけ。有限会社かごしま有機生産組合で有機農業の研修を受け、有機農業に従事。
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 9割は、有限会社かごしま有機生産組合に出荷し、地域の物産館（日置市こけけ特産品販売所）にも出荷。その他、ふるさと納税返礼品、SNS等を通じて直接販売。
- キウイフルーツは、地球畑（鹿児島市）に今年から販売。
- だいこん、にんじんは、東市来小・中学校の給食用にも納品。



<作物の多角化について>

- だいこん等の収穫作業は、重労働なので、年齢を重ねても有機農業に取り組めるように、キウイフルーツ、カンキツ類の栽培にも取り組む。キウイフルーツは、今年から出荷。
- 夏場の収入を確保するために、切り餅の製造・販売を検討中。

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
農薬は、一切使わず、土づくりをしっかりと行うことで病害虫の発生は減少。
また、キウイフルーツ、カンキツは、カミキリムシの食害（木くず）を発見するため、栽培木の株元の除草を徹底。
- **雑草対策**
畝間も含めてマルチ被覆している。特にマルチ穴の株元の除草に苦労するので、雑草が小さいうちに手取りを徹底。
冬にんじんは、夏に透明マルチ被覆による太陽熱土壤消毒で雑草を抑制。水稻は、ジャンボタニシが除草。
- **土づくり**
野菜・いもは、栽培前に緑肥を作付け・すき込みを実施。
また、畑の状態を観察して、鶏糞を必要な量、散布。

<苦労しているところ>

- さつまいもの害虫（コガネムシの幼虫）による食害。
- 気候変動による植付け時期の見極め。

<今後の展開>

- 機械が使えない狭い水田で、今年から冬期湛水、直播等の自然栽培農法の実証に取り組む予定。これにより、手間・コストを掛けずにコメの生産を行うとともに、地域の農地を守る。

【お問合せ先】TEL. 080-3960-3622

ジャラン農園 Jarun Farm | Facebook



<基本情報>

所在地：鹿児島県いちき串木野市湊町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場 約3ha
(ポンカン1ha、温州ミカン0.5ha、
レモン0.5ha、その他作物1ha)
- 収穫体験が可能



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 父亡き後、土壌流出の発生や「さのう」※が固くなったと感じたことをきっかけに、土づくりが重要と考え、有機農業の基礎を文献で学び、平成9年（1997年）に有機農業に転換。

※さのう：小さい果肉のつぶつぶを包む袋のこと。「さじょう」ともいう。この小さい果肉の集まりを包んでいる薄皮の事を「じょうのう」という。

- 平成27年（2015年）有機JAS認証取得。

<販売について>

- 会員となっている有限会社かごしま有機生産組合経由で販売。
- その他、ネットやイベント販売の他、顧客へ直接販売。
- 自家製ポンカンジュース（原料は全て自園、720ml入）を、ネットやイベントにて販売。



<こだわり>

- 使用する苗木は、自園の優良樹から枝採取したものを直接、苗木生産業者へ委託し、接ぎ木したもの。

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策**
カイガラムシ対策として、有機JASで使用を認められているマシン油を必要最小限使用。
- **雑草対策**
人力（草刈機及び手作業）。
- **土づくり**
地元の畜産農家の堆肥に、米ぬか、黒砂糖、草本灰及び発酵菌により発酵させた有機ぼかし肥料を使用。



<苦労しているところ>

- 面積拡大で、手が回らなくなったため、外部雇用の検討。
- 雑草の除草や段々畑の石垣の保全。
- カミキリムシやナガタマムシなどの害虫対応や鳥獣害の対応に苦慮。

<今後の展開>

- 有機農産物の良さを分かってもらえる方に、購入頂きたいため、オーガニッククフェスタなどに参加し消費者へのPRを実施。
- 収入の安定のため、亜熱帯性果実であるパッションフルーツの栽培実証を引き続き実施。
- 自然の環境を活かし、農場を昆虫採集など子供に開放して、親子との交流の場とする。



<基本情報>

所在地：鹿児島県始良市

<農場概要>

- 有機JAS認証圃場7ha
- 桑の栽培から加工・販売までを一貫して手がける6次産業型の農業法人
- 従業員25名



<有機農業に取り組むきっかけ>

- わくわく園がある鹿児島県始良市は、地域をあげて有機農業に取り組み、有機の郷「あいら」として知られる地。消えゆく桑畑に光を当て、良いものを作って世に送り出したいとの思いから、日本古来のスーパーフードである希少な「桑」で世界に通じる桑専門店を目指し、平成25年(2013年)に有機JAS認証を取得。

<販売について>

- コロナ禍以降、対面中心の販売からネット販売に重点を置く。
- 現在、自社サイトはもとより、有名通販サイトでの販売を展開。
- さつま桑本舗わくわく園仙巖園店やふるさと納税、イベントなどでも販売。

<わくわく園のビジネスモデル>

- 農家発のブランディング力、自社完結型ビジネスモデルを活かした6次産業化の取組。
- 健康の一助となる桑の葉の市場を切り拓く取組。
- 自社農地の拡大と農家連携の取組。
- 農業を「夢のある職業」に変えていく挑戦。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策、雑草対策
無農薬栽培であるため、病害虫及び除草対策は手作業で対応。
- 土づくり
良質な堆肥を散布し、農薬や化学肥料は未使用。
最適な環境での栽培に拘る。



<苦労しているところ>

- 農作業従事者の確保。
- 近年の気象状況への対応。
- 資材コストの高騰。



<今後の展開>

- ECにおける桑市場の拡大。
- 若手の雇用創出、女性活躍の推進（促進）。
- 取組中の6次産業化の活性化。
- 耕作放棄地の解消。



【お問合せ先】

TEL. 0995-62-3030

ホームページ <https://wakuwakuen.co.jp>